

# ■ 2009年度 入試問題分析シート ■

北海道大学 文学部

前期日程

科目

日本史

## 総括

試験時間	90分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	150点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

### 〈総論〉

- ① 出題形式(大問4題、記述・論述)という出題形式は例年通り。
- ② 記述問題は例年通り基本事項を中心に出题されている。論述問題の総字数は増加(2005年:365字+4行→2006年:545字→2007年:260字+約3行→2008年:420字→2009年:410字+15行)。

### 〈特記事項・トピックス〉

- ① ①では、昨年復活した論述問題が今年も出題された。短文での論述は今後も続くであろう。また、これまでみられなかった「30字以上40字以内」という指定は、用語を並べただけでは得点にはならないという警鐘なのであろうか。
- ② 論述の総字数は昨年度に比べ大幅に増加した。題意がとりにくい設問や、問われている内容と字数がかみ合っていない印象を受ける設問も2・3みられ、所定の時間内ですべてを解答するのは困難である。
- ③ ②以降すべて史料問題で、字数そのものは多くはないが、受験生は戸惑ったことであろう。
- ④ なお、①・②には本校の北大実戦模試で取り上げたテーマと共通するものがみられた。受験生にはきわめて有利であったであろう。

### 〈合格への学習対策〉

- ① 教科書の基本事項を固める。
- ② 歴史事象の因果関係や特徴に注意しながら学習を進める。
- ③ 過去問などを活用して、論述対策にとりくむ。しっかりした基礎力に加え、スピードも要求されるので、早い段階からの準備が望ましい。
- ④ 山川出版社の『詳説日本史B』の文をそのまま解答にしたような設問がみられるため、これを熟読しておくとうい。

## 設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
①	記述・論述 80字	原始・古代の総合問題	問5の法隆寺に関する文章の誤りを訂正させる問題は難かしいし、問8の「壬申の乱」を要求通りに40字にまとめるのは困難である。	やや難
②	記述・論述 160字	元寇とその後の社会・朝倉孝景条々	論述は含まれるものの、大問中では最も取り組みやすかったのではないか。問5は史料を踏まえて書くことが大切である。	標準
③	記述・論述 170字	史料を用いた江戸時代の総合問題	問1・問4は何を問われているのか判断に迷う。また、問9の論述は、問われている内容と字数がかみ合っていない印象を受ける。	標準
④	記述・論述 15行	史料を用いた明治～占領期までの総合問題	論述は、すべて下線部3行の問題。問題によっては、3行では足らなかつたり、2行で十分であったりと、もう少し工夫が欲しかった。また、問4・問7は何を書けばよいのか題意がつかめないため、受験生は困惑したであろう。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階(難・やや難・標準・やや易・易)で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。

## 出典・資料

『往生要集』『折たく柴の記』『一外交官の見た明治維新』『回顧録(牧野伸顕)』『中央公論』『政界道中記(有馬頼寧)』など